

## 市川歴史博物館所蔵地図史料調査の概要

高木 晋一郎

### 1. はじめに

近年、全国各地の歴史系の博物館などで古地図を題材とした企画展が開催されたり、古地図を集めた図録や史料集が刊行されたりしている<sup>(1)</sup>。古地図を分析することにより、地形や地名の変遷をたどることができ、自治体史の編さん事業を進める上で地図史料の調査は不可欠なプロセスである。しかし、市川市域に残存する地図史料に関する体系的な調査はこれまで行われてこなかった。

2009年度より、市川歴史博物館に収蔵されている地図史料について、その概要を把握するための調査を行うこととなった。本稿では、現時点までに判明した市川歴史博物館収蔵の地図史料の概要を紹介したい。但し、収蔵されている全ての地図を調査対象とすると、その量が膨大なものになってしまうため、ここでは以下の基準に合うものを調査対象とした。

1. 原則的に近世から昭和戦前期までに作成されたものを調査対象とする<sup>(2)</sup>。
2. 手描きの地図・絵図については、全て調査対象とする。
3. 印刷物については、市川市域に関係するもの、並びにその隣接地域（松戸・船橋・鎌ヶ谷・浦安各市、江戸川区）に関係するものに限って調査対象とする。

市川市内の古文書調査は、昭和40年代の市史編纂事業に際し木村礎氏らを中心として行われ、既に市川市史編纂委員会編1968『市川市内古文書目録』が刊行されている。また、昭和50年代には補充調査が行われ、その成果物として市川歴史博物館編1984・1985『市川市史料目録』第1集・第2集<sup>(3)</sup>が刊行されている。しかし、これらの目録には以下のような問題点がある。

一点目は、『市川市内古文書目録』（以下、『古文書目録』）と『市川市史料目録』（以下、『史料目録』）のどちらか一方に収録されている史料と、両者に重複して収録されている史料があることが挙げられる。そのため、両者を照合する必要がある。

二点目は、史料の内容や点数を正確に把握しづらいことである。例えば、下妙典村岩田家文書の村絵図について見ると、『古文書目録』104頁には「絵図」という分類で「一 塩浜田畑絵図 元文四 一（1点一引用者）」「二 村絵図（幕末～明治）」